

助成受給団体名	ふりがな いぼんしせだんほうしん さんりく しせんからこう 一般社団法人 三陸ひとのなご自然学校
事業の名称	遊びの大切さと 安全安心から考える 子どもの居場所づくり
実施期間	平成25年8月1日～同 26年 3月31日
実施した事業の内容(200字以上500字以内に収めてください。) ●子ども中居由心検討委員会(①8/28、②11/24) ① 審判や教育委員会、仮設自治会長、保護者、小学校教員、当団体職員など子ども居場所に関心ある方。② 事業の報告、意見交換 ●子ども居場所づくり(①8/28、②8/29) 奥作居・栗林の2カ所で開催。子ども達と仮設周辺を散策し、「どんな遊びがしたい? どんな場所が気持ちいい?」などを考える。 ●石井修伝(①10/9、②11/6) 検討委員など大人に対して実施。①ネイチャーガイド(以下N.G.)を通して子どもが自然を学ぶ。②森林インストラクターと共に限られた場所での自然のなかでの遊びの展開について考える。N.G.用品を購入し、石井修伝や子ども教室で使用。消費品ではあるが、現在も子ども教室で使用。 ●子ども居場所フォーラム(11/24) 基調講演「子どもの居場所とは?」 根柢正 自衛隊副司令官(元)、「トウモロコシ」報告書の作成: 本事業の内容、成果、課題等を取りまとめた冊子。地域住民や地域内外で活動している方への本事業の内容を伝える際に、効果的に活用できるツールとなった。また、事柄後、復興住宅などの物件が進んでいく際に新しいコミュニティ形成のきっかけとして活用される。また、居場所の展開時に活用している。	
事業の成果(200字以上400字以内に収めてください。) 検討委員会において、地域の子どもと大人が出会う場が少なかったことが課題の一つに上がっていることがわかった。そこで試行的に地域の子どもと大人が出会う場として、放課後子ども教室において子ども達と一緒に内容の検討と準備を行い、地域の方の参加も得られ、継続していくことができた。また実施していく過程において、検討委員さんたちが共通の課題を認識していただけて、多大な協力を得ることができた。地域で子どもたちが居る関係性を築くことができた。 石井修伝では、他にもないような仮設住宅団地で少し視点を変えたり、工夫することによって、遊びの場がわたり、色々な検討委員の方々と共有することができた。 またこれから一連の事業を地域の方へ伝えるフォーラムを開催し、より多くの方々にお伝えすることができたことにより、共感し、応援してくださる方が増えた。	
今後の課題 被災地の状況はめまぐるしく変化しているため、子どもたちの環境や課題も変化すると考えられる。そのため検討委員会を一回的なものにするのではなく、継続的に開催することで子どもたちがお話しする環境の課題を常に把握し、それに対してどう行動していくかを地域の方々と考える場を作っていく必要がある。 また2014年度は森林インストラクターの方に定期的に来ていただく、アドバイスを受けるながら、お話し場のフィールドを開拓していく。	

